レジュメテンプレート（Word版）

学籍番号　氏名（所属ゼミ）

2020年1月1日

概要

要旨を書きます。目的、方法、結果、考察の流れで書いてください（研究計画までの場合は目的、方法、期待される結果の流れとなります）。200字～400字で書きます。レジュメ全体を要約した内容になることを心がけ、この部分を読めば内容が概ね理解できるようにしましょう。

# はじめに

　発表原稿は論文としてふさわしい体裁を整えてください。原稿が出来上がったら何度も読み直し、文章を推敲しましょう。1度読んでも見つけられなかった間違いが何度も読むと見つかるものです。また方法論や条件等を明確にして、その研究を知らない人が読んで理解できるものであるかにも注意してください。

「最低限ルール」は絶対に守ってください。続く「その他の留意点」はより良い論文を作成するために参考にすべき点をまとめたものです。過去の論文なども参考に論文を作成してください。

　なお、このテンプレートはマージンを調整済みです。ワープロソフトの操作に自信のない方は、このテンプレートに上書きする形で編集することをお勧めします。

## 最低限ルール

　発表原稿を作成するに当たって以下のことは絶対に守ってください．

1. 用紙サイズはA4
2. マージンは上17mm、下19mm、左右22mm
3. タイトル（17ポイント）、学籍番号・氏名・所属（12ポイント）、発表日（12ポイント）を記入する
4. 段組みを行い、それぞれ24文字×41行に設定します
5. 末尾に筆者のひらがな表記を記入する
6. 枚数は2枚または4ページ（偶数ページ）
7. ページ数は入れないでください
8. 提出ファイル形式はPDF
9. ファイルサイズは10MB以内
10. 「である調」で書く。この文章は「ですます調」ですが。
11. 主観が入らないようにする（個人的な経験や感想は書かない）。客観的な記述を心掛ける
12. レジュメの流れは研究の進捗状況によって異なる（表1参照）

表 1　レジュメの流れ

|  |  |
| --- | --- |
| 研究計画段階 | はじめに→目的→方法→予想される結果と社会的意義→今後の予定→引用文献 |
| 途中まで進んでいる場合 | はじめに→目的→方法→結果→考察→今後の課題や今後の予定→引用文献 |
| 最後まで終わっている場合 | はじめに→目的→方法→結果→考察→結論→今後の課題（あれば）→引用文献 |

## その他の留意点

### 予備実験結果の記載

　予備実験結果を記載する場合は、予備実験の参加者数と本実験でデータを取得する予定人数を書くと良い。

### 図表共通で注意すべき点

　図表は本文中にその説明を入れ、図の場合は図の下に、表の場合は表の上に図表番号とタイトルを入れてください。なお、図と表の中身は重複しないようにしましょう。データの内容によって図と表のどちらを用いたほうがわかりやすいかを考え、良いほうを選択してください。

　図表をExcelからWordに貼り付ける場合にはそのまま「貼り付け」を選ぶと編集中のWordの中にExcelのファイルが埋め込まれてしまい、ファイルサイズが非常に大きくなる場合があります．貼り付けの際には「編集」→「形式を選択して貼り付け」→「図」を選び、ファイルサイズを抑えるようにしてください。

### 表の作成

表に用いる罫線は最低限に、可能であれば横線だけで構成されている表がベターです。表中の文字は本文の文字と同程度の大きさにしてください。数値の表記は小数点位置を揃えましょう。一方の数値が「2」なのにもう一方が「1.3333」となっているのは好ましくありません。数値の性質上小数点以下何桁まで表記するべきかを決めてください。

### 図の作成

　印刷は白黒です。色は使わないでください。図中の文字は本文の文字と同程度の大きさにしてください。写真や絵は300dpi（1インチ約2.5cmあたり300ピクセル）以上の解像度としてください。カラー写真を添付した場合、印刷が上手くいかない恐れがありますので、モノクロ写真に変更する等、適宜調整してください（かつての提出原稿で印刷が上手くいかなかった図表の例を3ページに示します）。グラフの軸にはタイトルと単位が必要です。軸が変数の場合、特段の事情がなければ原点をゼロにしてください。横軸がカテゴリの場合は棒グラフや箱ひげ図が、横軸が時間推移などを示している場合には折れ線グラフが、両軸とも等間隔尺度の場合は散布図が一般的です。立体のグラフは避けましょう。

## はじめにの構成

これから実施しようとしている研究の必要性について示します。まず、研究が対象としているテーマに係る社会情勢を示してください。例えば、以下のようなものが考えられます。

* 交通事故は減少傾向にあるが、交通安全基本計画で定める目標値には達していない
* 高齢者の死亡事故が占める割合が多い
* 自動車の自動化が進展している

　こうした事実に言及する際は、個人的な経験を述べるのではなく、統計データを示すとよいです。

　次に、研究テーマに関連する過去の研究について述べてください（レビューと言います）。これまでの研究で何が明らかにされていて、何が明らかにされていないのかを明確にします。レビューのない研究は、研究としての価値が半減しますし、レビューをしていないと研究の方法論が定まらなかった理、すでに既知である事実を研究テーマにしてしまうことにもつながります。

# 目的

この研究で何を明らかにしたいのかを具体的に述べてください。対象を学生に限定するとか、男性に限定するといった制約条件がある場合はここで述べるとよいでしょう。その場合でも、制約をする合理的な理由が必要ですので、ここで述べましょう。

# 方法

実験や調査の手続きを詳細に記述します。この項目を読めば、他者でも同一の研究を行うことができるような詳細さで書くことが求められます。具体的には次の各項目を書きましょう。

## 実験参加者（調査対象者）

実験の場合は「実験参加者」、調査の場合は「調査対象者」とします。かつては被験者と呼んでいたが、実験や調査に参加した方の人権を尊重するとの考えに基づき、現在は使用しません。人数、性別、年齢（平均値と標準偏差）、募集方法、属性（運転経験等）などを書いてください。

## 機器

機械や器具を使用した場合はメーカー、型番を書きます。カメラ、自転車、プロジェクタ、レインコート、LED、スイッチ等、使用したものはすべて書いてください。

## 質問項目

　質問紙の場合には必ず書きます。オリジナルで作成したのか、先行研究を参考にしたのかを明示してください。具体的な項目と回答方法（5件法や自由記述、択一式等）、項目数を書きます。

## 刺激作成

　写真や映像を提示する実験の場合に、どのようにして撮影をしたのかを詳しく記載します。説明を読んで同じ写真、映像が撮れるくらい詳細に書くことを心がけましょう。

## 実験システム

　実験を行う際の機械の接続方法、ディスプレイやスクリーンから事件参加者までの距離、自転車の走行実験を行う場合はコースのレイアウト等、図を使って示しつつ、文章でも説明しましょう。

## 実験条件

　研究目的を「○○が△△に及ぼす影響を調べる」という表現を取った場合、○○が独立変数（実験条件）、△△が従属変数となります。独立変数（実験条件）の影響を調べる場合には実験条件以外は統制される必要があります（＝条件をそろえる）。

　携帯電話の使用が自転車のふらつきにあたる影響を調べるのであれば、「携帯電話」が独立変数（実験条件）となり、この影響を調べるために「携帯電話を使用する場合」と「使用しない場合」の比較を行うことになります。

　独立変数（実験条件）と従属変数がそれぞれなんであるかを書いてください。

## 手順

　実験や調査の流れについて。予備調査、予備実験をしたのかどうか、実験であれば何試行実施したか、調査であればその場で配付・回収をしたのか、郵送法か等。

## 分析方法

　収集したデータをどのように分析したのかを説明します。

# 予想される結果と社会的意義

研究計画を発表する段階で必要な項目です。どのような結果が出ると予想されるのか。また、今回の研究が社会にとって何の役に立つのかを書きます。社会の役に立たない研究は実施する必要がありません。すでにデータを収集した場合はこの項目は削除して構いません。

# 結果

結果は事実のみを述べます。図や表を示しながらわかりやすく述べることを心掛けてください。統計的な検定を行っている場合もここに記載します。

結果がどのように解釈できるのかを述べるのが考察です。結果と考察が混在しないようにしましょう。

統計情報の表記はそれぞれの検定方法の通例に従ってください。統計記号（*SD*，*df*，*p*など）はイタリックで表記します。

# 考察

結果がどのように解釈できるのか。先行研究と比較して、同様の結果が得られたのか。異なる結果なのか。異なる場合、なぜそうなったのか。今回の結果の社会的な意義などを述べてください。

# 結論

目的に対して明らかになったことを整理して述べます。数行で構いません。箇条書きで述べる場合もあります。

# 今後の課題（今後の予定）

　研究計画の段階や研究の途上段階の場合は、今後のスケジュールを書きます。研究途上段階で、解決しなければならない問題が出てきた場合は課題も書いてください。また研究が終わった後で、今回は明らかにできなかったことがあれば課題として整理します（たとえば、学生のみを対象にしたので、幅広い年代のデータ収集を行い、結果の妥当性を検証しなければならない等）。

# 引用文献

## 文献の引用

引用文献の記載は分野によってルールが決まっています。例えば心理学と人間工学では書き方が違います。どの分野の書き方でもかまいませんが書き方を統一してください。また、いずれの方法による場合でも、どこからどこまでが引用で、どこからどこまでが筆者の文章なのかがわかるように書かなければいけません。引用であることを明記せずに人の文章を書き写したり、コピペしたりは絶対にやめてください。

引用文献の記載方法は、心理学系、工学系で異なります。どちらを採用するかは筆者の自由としますが，混在は避けてください。心理学系の記載方法については日本心理学会執筆の手引き（以下のURL）詳細が載っていますので参考にしてください。

<http://www.psych.or.jp/publication/inst/tebiki2005_fixed.pdf>

## 引用文献リストの例

本文中で引用した文献のみ記載します。単に参考にした（勉強のために読んだ）文献は載せません。下記に一例を示します。

**工学系（本文内の登場順）**

1)著者名（年）論文タイトル，掲載雑誌タイトル，号，開始ページ-終了ページ．

2)Author's family name, Initial of author's first name., (year), Title, Title of journal, Number, p-p.

**心理系（著者苗字のアルファベット順）**

Author's family name, Initial of author's first name., (year), Title, Title of journal, Number, p-p.

著者名（年）論文タイトル，掲載雑誌タイトル，号，開始ページ-終了ページ．

（みょうじ　なまえ）

参考　印刷した場合

例1：交通場面の刺激画像

【発表原稿提出時】



↓

【原稿印刷時】

****

例2：グラフ

【発表原稿提出時】



↓

【原稿印刷時】

